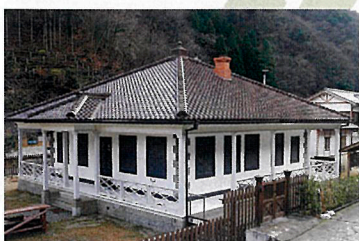


裏路地探険

国道429号を神子畑川に沿って西に進むと、東洋といわれた神子畑選鉦場跡がある。平成16年に取り壊され、今はコンクリートの基礎部分を残すだけだが、かつては不夜城のような光景が広がっていた。静かな山あいにも、これだけの設備があったとはとても驚きた。

「明延鉦山で採掘された鉦石の選鉦場というイメージが強いですが、元々は鉦山だったんですよ」とは、案内役をお願いした山内区長を始めとする地元有志の皆さん。はつきりとした史料は残っていないが、古くは生野鉦山と同じ、平安初期頃には開山されていたといえられている。

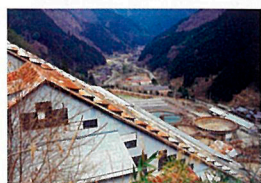
神子畑鉦山が最も繁栄したのは、近代に入ってからのこと。生野鉦山周辺を調査した結果、明治11年、神子畑で銀鉦脈が再発見さ



旧神子畑鉦山事務舎は明治20年に生野鉦山から移築された建物。神子畑では永く診療所として活躍した。元はフランス人技師たちの宿舎で、同建物は5つあった内の2番館である。技師団の中でコウニ工に次ぐ地位にあったムーセの名をとり、通称「ムーセ旧居」として資料展示、一般公開されている。(※土日のみ・10～17時/12/29～2月末は休館)



官営時代に建設されたことを示す瓦の「菊の御紋」



在りし日の選鉦場。山の斜面に造られた建物は迫力があつた。

至鉦鉄橋・朝来市街・国道312号



平成16年に解体工事が終了した「神子畑選鉦場」跡。現在はコンクリートの基礎部分とケーブルカーの軌道跡が残る。一帯は公園として整備されている。



液体中に混じる固体粒子を分離する装置「シクナー(右)」は百尺(約30メートル)の他に、55尺(約16メートル)がある。選鉦場の昇り降りを行った「ケーブルカーの軌道跡(左)」。頂上の操作室から手信号で乗降が行われた。(※ともに構内は立入禁止)

明治の近代化を支えた「神子畑鉦山」の面影
東洋と呼ばれた「選鉦場」、巨大なシクナー……
鉦山師たちが暮らした足跡がここにはある

れる。新たな鉦脈は「加盛山」と呼ばれ、生野鉦山の支山として銀の採鉦が始まった。

しかし、採鉦の不況により明治40年以降は苦境に立たされることになるが、明治42年、明延でその名を世に知らしめる「錫鉦脈」が発見されると、神子畑は新たな道を歩むことになる。明延で採鉦される鉦石を選鉦する場所として、生まれ変わることになったのだ。

「選鉦」とは、採掘した鉦石を有用鉦物と不用鉦物とに分離する作業のこと。効率よく順番に選鉦するため、山の急斜面を利用して選鉦場は建設された。22もの階層があり、その規模は幅110メートル、長さ170メートル、高低差は75メートルにも及んだ。

「東洋」と呼ばれるのは、規模の大きさから。日本有数の選鉦場が

この山里にあつたとは非常に感慨深い」と、説明役の藤本さんは話す。

昭和30年頃には約1300人もの人が生活していたという神子畑地区。スーパーであつた購買会、映画を上映した協和会館や文化会館(卓球・柔道・ビリヤード)など、福利厚生施設も充実していた。

明治33年にはいち早く私立の小学校が創立。その4年前に三菱へ経営移管され、東京の本社から社員が移り住んできたこともあり、教育には熱心だつたそう。その後、公立の分校となつても生徒数は増え続け、最盛期には230人を超える小学生が在籍していた。

「毎日が参観日のように賑やかでした」とは、分校の教員として勤務していた上田先生。学校がどんな手狭になり、体育館ができるまでは毎年、入学式の場所に苦慮していたそう。

その他にも、フランス人技師の宿舎だつた「旧神子畑鉦山事務舎」や日本最古の鉄橋である「神子畑鉄橋」など、鉦山の面影を偲ばせる建物が残る神子畑の町。春は川沿いの桜並木が満開を迎え、1年で最も美しい季節を迎えるそう。近代化の原点をたどる旅へ出かけてみてはどうだろうか。

URAROJI TANKEN



神子畑小学校跡には体育館とグラウンド跡が残る。

明延鉦山から鉦石を運んだ明神電車(一円電車)の発着駅があつた。従業員の通勤や家族の通学にも利用され、駅までの険しい山道を登ったという。遠く山肌にはかすかに軌道跡を見ることができる。

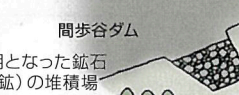
ケーブルカー(インクライン)頂上の小屋は操作室



一円電車や鉄橋をイメージしたモニュメントが建てられた国道429号(鉦石の道)の橋



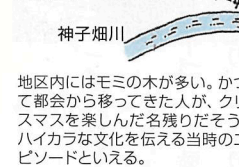
選鉦場跡から東へ、国道429号沿いにある国指定重要文化財「神子畑鉄橋」。生野までの鉦石運搬のため、馬車道(鉦石の道)が整備された際に架けられた。



間歩谷ダム
不用となった鉦石(尾鉦)の堆積場



山神宮跡
ムーセ旧居前にある「サルスベリ」は県指定郷土記念物。開花時期は8～9月頃。



地区内にはモミの木が多い。かつて都会から移ってきた人が、クリスマスを楽しんだ名残りだそう。ハイカラな文化を伝える当時のエピソードといえる。

至穴栗市

●「裏路地探険」参加募集

平成24年4月21日(土) 10:00～12:00
「但馬御火浦を歩く」新温泉町三尾

※実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ、住所・氏名・年齢・電話番号・「裏路地参加希望」とお書きの上、ハガキで申し込みください。開催は午前中、現地集合・現地解散となります。申込締切日後、案内を参加ご希望の方へ送付します。



春は神子畑沿いの桜並木が満開を迎え、写真スポットになっている。



小学校のグラウンド奥に佇む「山神宮」跡(奥)。毎年、4月には大祭が行われ、鉦山の繁栄と安全が祈願された。立派な神輿も出て、当時は大変賑わつたという。現在は不動明王(手前)を祀っている。



川沿いの桜並木
川沿いには下流まで社宅がたくさん並んでいた